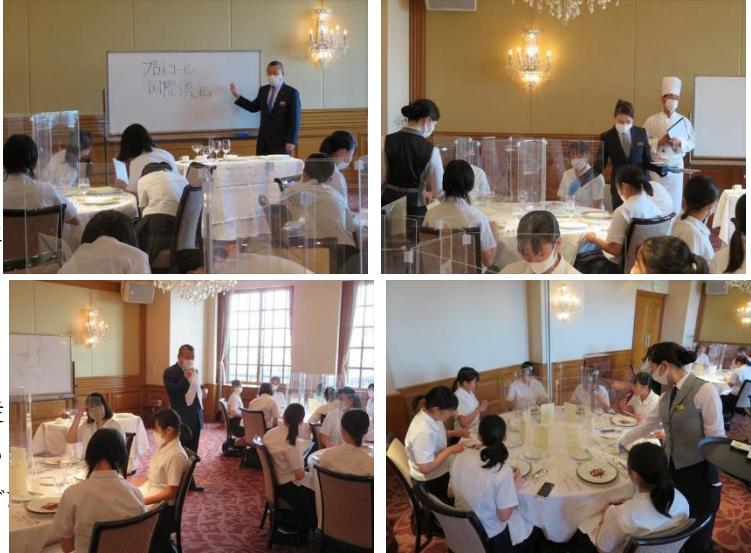




7月15日生活科学科2年の調理実習では紅梅亭料理長の武田利史先生に来ていただき、寄せ物としてゴマ豆腐、炊込ご飯としてのものごしご飯の作り方を学びました。非常に細かなところまで指導していただきました。今も調理実習は、2班体制で行っており、実習の時間不足は各自がメモを取りながら家庭での学び直しで補っている状況です。苦労は続きますが、ここでの苦労は必ず今後に役立つと思いますので、新型コロナウイルス感染拡大終息までもうしばらくの辛抱です。

7月16日には、1年生(体育科を除く)は大学見学会に出かけました。希望学部や希望進学先に応じて4つのコースを作り、それぞれが2大学を回るコースで大学の雰囲気を感じてきました。2学期の文理選択に向け刺激をもらったことだと思います。

また同日、生活科学科3年生は、ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランドでフードマネジメント実習を行いました。黄綬褒章受章の檜山総支配人からテーブルマナーについての講義を受けながら、加東市産もち麦を使用したパンや百日鶏を使用したメイン料理などフォークやナイフを使っての食事に緊張しながらも学びを深めることができました。日本にはない「レディファースト」の文化や給仕の仕方、ナイフとフォークの置き方などそのマナーについても非常に細かな部分まで説明いただき、生徒たちは必死にメモを取りながら、真剣に講義を聴いていました。デザートも堪能し、とても良い経験ができたと思います。



7月18日には野球部の兵庫県予選3回戦がありました。15日の本校初戦では西宮甲山高校に8-1で勝利し、迎えた小野工業高校との対戦です。初回は難なく抑えたのですが、2回にコツコツとうまく合わせられランナーが出て、ファースト強襲のゴロをはじき外野へ転ぶ間に先制点を奪われ、その裏の攻撃も三者凡退に倒れ、嫌な空気が流れ始めました。そこで堀田投手から変わった藤田投手が三振の山を築き、流れを引き戻すと、3回裏の攻撃で連打し、逆転に成功。その後も4回、5回、6回とうまくつないで1点ずつを取り、最終的には5-1で勝利しました。バントがうまく成功しなかった点やここ一番での勝負強さなどまだまだ課題はあるようですが、一戦一戦感覚を身に付け、勝負強くなつていけば成長していくと思いますので、次回に向けしっかりと調整してください。また、ベンチに入れなかった選手たちが整地の補助や応援に回ってくれており、そういった選手の分も出場選手は心に感じて戦ってくれていると思います。さらに、今回は保護者や一般客も観覧席に入ることができたため多くの方に見守られながら試合ができました。非常に暑い中、ご声援ありがとうございました。次回21日は神戸学院大学附属高校との対戦で、勝てばベスト16です。持てる力を発揮し、昨年勝負できなかった卒業生の分も合わせて気持ちのこもった試合をしてください。



7月18日神戸新聞朝刊オピニオン面「見る 思う」欄に「コロナ下で取り戻せた一体感」というテーマで私の書いた原稿が掲載されました。6月中旬に依頼があり、1年間の学校における生徒、職員の頑張りを振り返って今後に向けて進みだす内容で書きました。本来ならもう少し内容を膨らませたいところでしたが、字数の関係もあり、最終的に掲載された内容となりました。特に文化発表会での達成感にこの1年が集約されていると感じていますので、何とかそこをメインにまとめました。以下が本文内容です。よろしければ感想等聞かせていただければと思います。

新型コロナウイルス感染拡大により、昨年は学校の臨時休業が3ヶ月にも及びました。そのことは学校行事、部活動に関わる生徒の活動や心には大きな影響をもたらしました。

最初の緊急事態宣言発令時は、新学期早々であったため、新1年生のオリエンテーションや3年生の進路選択の準備ができませんでした。学校再開時は授業が優先されたため、生徒の心に寄り添う時間の確保に苦労しました。学校行事では文化祭がとりやめとなり、体育大会も応援合戦を中止するなど、密を避ける種目変更を余儀なくされました。さらに始業式などで校歌を歌う機会もなくなり、学校としてのまとまりを感じる機会が大きく減りました。

部活動においても、大会やコンクールの中止が決定し、生徒の心に大きな穴が空きました。「なぜ私たちだけ…」という思いが消えない中、とにかく生徒に寄り添い、前を向けるようにしていくことしかできませんでした。特に県立学校で唯一の体育科を有する本校は、部活動に懸ける気持ちの強い生徒ばかりで、その中には寮生活を送りながら練習に励む生徒もいます。大会中止による体育科の生徒たちの喪失感はかなり大きかったと感じます。

しかし、彼らはその思いを切り替え、残された代替大会などに精いっぱい取り組みました。また、後輩たちの育成にも力を注いでくれました。生活科学科の生徒も、校外での活動を自粛した分、校内での研究を続け、私たち教員が思っていた以上の成果を出してくれました。

生徒たちの1年はその時、その瞬間がすべてです。学校としてできなかったことは翌年にはすることも可能ですが、生徒たちは経験できないまま卒業してしまいます。

今回、「例年通り」ということを改めて考えさせられました。生徒たちはこのような時だから「①できることをやる②工夫する③考える」を言い続けました。教員も知恵を出し合い、できる事を増やして、生徒の経験を深めることができるように努めました。

積み重ねの結果、今年の文化発表会では、ステージ発表のみとし、教室でも鑑賞できるようにしました。飲食の販売をしないなど、例年ではない取組に、調整事項も多く、生徒会や担当教員は苦労もありました。しかし、発表会を通して学校の一体感を取り戻すことができ、生徒も教員も「やりきった」という達成感がありました。「できる事をやる、工夫する、考える」を意識してきたことが今回の成功につながったと思います。

新型コロナにより、失われたもののはありますが、生み出されたものも多くあることを私たちは知りました。前向きに取り組めたことに目を向け、できる事を増やしていく事が大切です。一步踏み出して考え、工夫して実行することを学んだ生徒たちが、コロナ終息後の社会をよりよいものに発展させてくれる事を信じ、これからも共に頑張ります。

7月19日には生徒会認証式、表彰伝達、全国大会壮行会を行いました。表彰伝達では、文化発表会、球技大会の表彰も行いました。非常に暑い中ではありましたが、進行もスムーズに進み、全国大会壮行会では、陸上部、柔道部、美術部の代表者が意気込みを述べ、私と生徒会長から激励をしました。大会を支えてくれる多くの関係者の方々、感染防止対策を意識し続けた本校の他の生徒や保護者の協力など、感謝の気持ちを忘れず、持てる力を発揮してきてほしいと思います。頑張ってきてください。

また、県知事選挙も終了しました。知事が交代します。私たちもしっかりとと考え、向き合わなければならぬことはたくさんありますが、互いに協力して支え合い、知恵を出し合ってやっていきましょう。そして、新型コロナウイルス感染も終息していませんので、感染防止対策も今まで通り、しっかりと取っていきましょう。